

世界が進むチカラになる。



経済調査

米国景気概況(2026年5月)

2026年5月11日

調査部 主任研究員

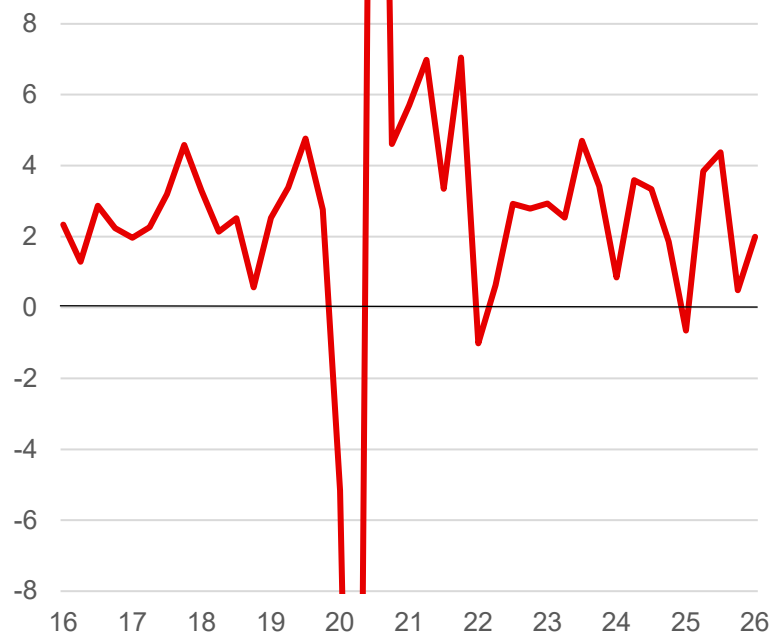
細尾 忠生

景気は底堅い

米国経済は堅調に推移している。1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率2.0%に加速した。輸入が1年ぶりに増加し成長率を押し下げたが、個人消費は底堅く推移し、設備投資はおよそ3年ぶりの高い伸びを記録した。企業の景況感を示すISM景況指数は、製造業、非製造業いずれも判断の目安となる50の水準を上回った。先行き、堅調な個人消費やAI需要の高まりなどから景気は底堅く推移する見込みである。

実質GDP

(前期比年率、%)

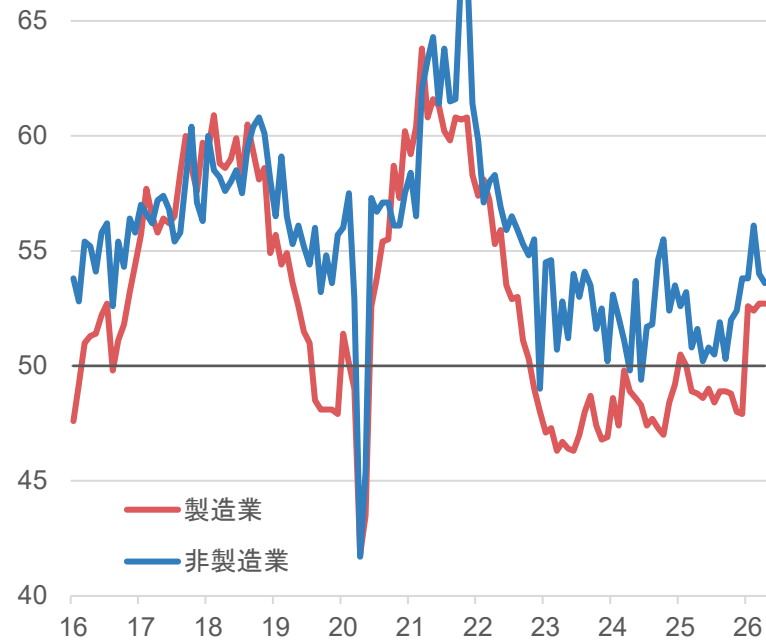


(出所)米商務省

(年、四半期)

ISM景況指数

(%)



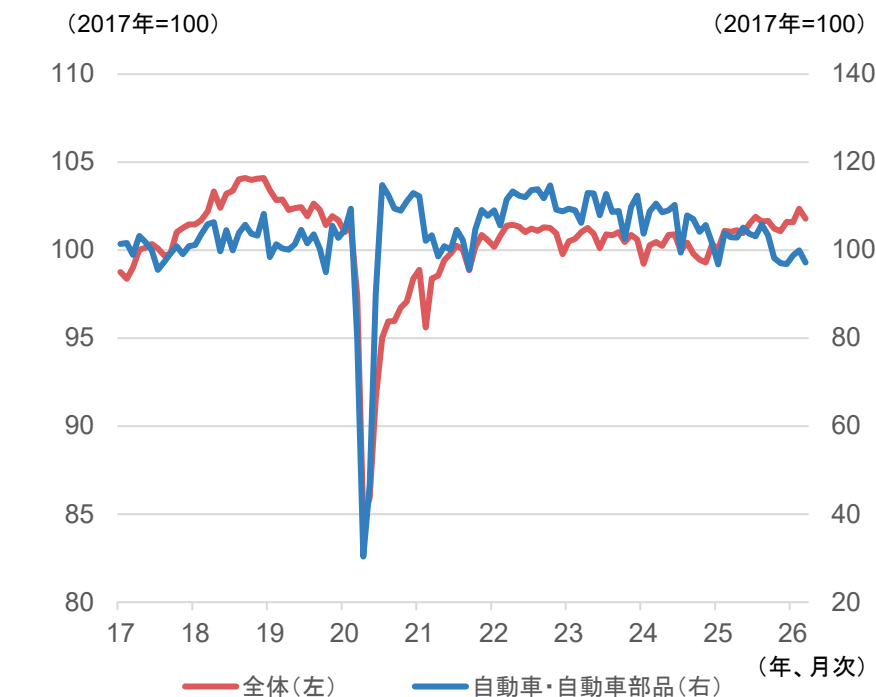
(出所)米供給管理協会

(年、月次)

生産は減少、雇用は増加

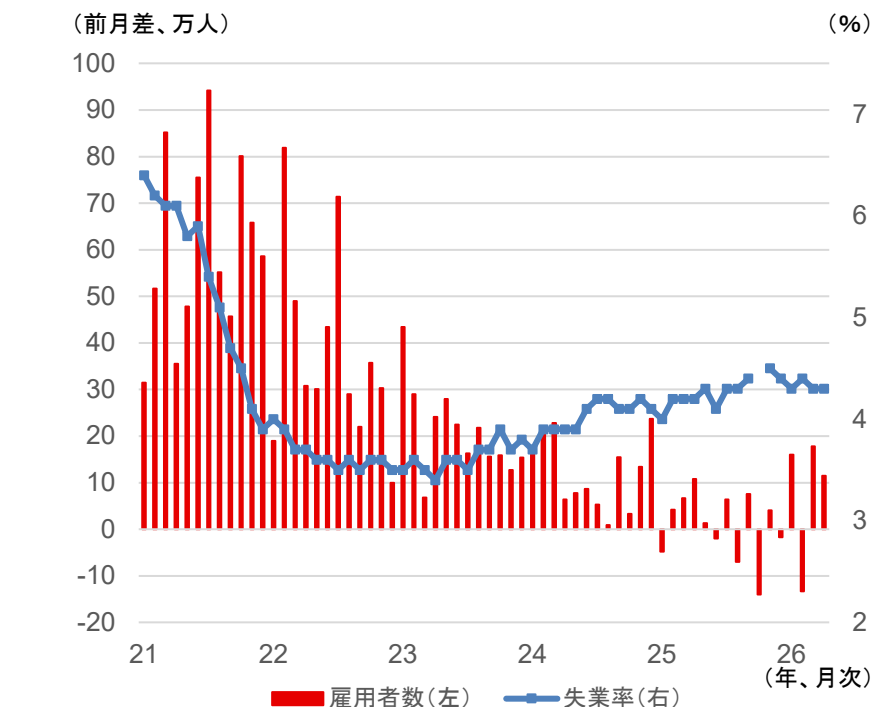
- 3月の鉱工業生産は前月比0.5%減少した。自動車・部品が同2.8%減と3カ月ぶりに減少したほか、鉱業も同1.2%減と2カ月ぶりに減少した。設備投資動向を示す3月のコア資本財出荷は同1.2%増と7カ月連続で増加した。
- 4月の非農業部門雇用者数は前月差11.5万人増加した。業種別では、教育・医療(同4.6万人増)、運輸(同3.0万人増)、小売(同2.2万人増)の増加幅が大きかった。また、失業率は4.3%と横ばいであった。

鉱工業生産



(出所)米FRB

雇用



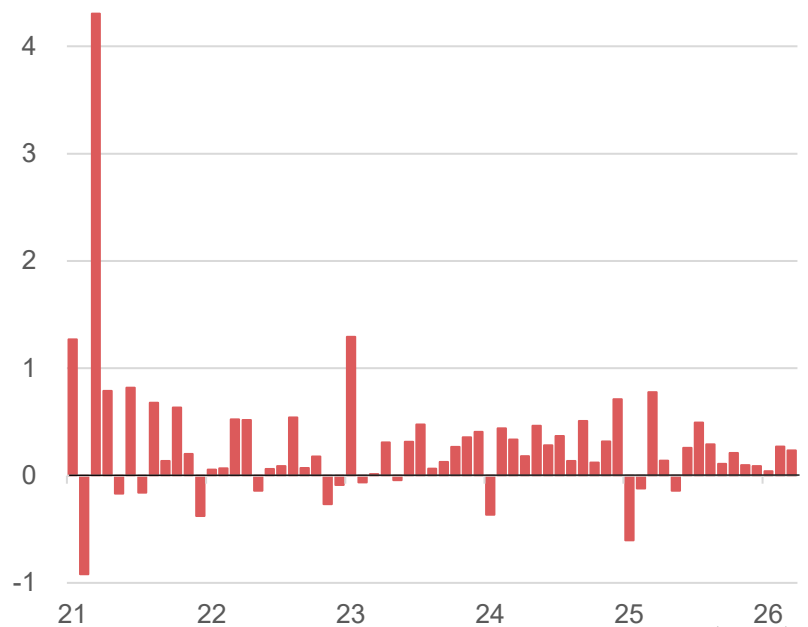
(注) 2025年10月の失業率は欠損値
(出所)米労働省

消費は増加、物価上昇率はガソリン高が懸念

- 3月の実質個人消費は前月比0.2%増加した。内訳をみると、自動車などの耐久財消費が同0.9%増、ガソリンなどの非耐久財消費は同0.3%増、外食、宿泊などのサービス消費が同0.1%増加した。
- 消費者物価(エネルギーと食料品を除くコアベース)上昇率は、3月は前年比2.8%と鈍化した。一方、FRBが重視する個人消費支出物価指数(同)上昇率は、3月は同3.2%とおおよそ2年ぶりの水準に加速した。先行き、サービスは鈍化傾向にあるものの、財は関税に加え、ガソリン価格上昇の影響もあり、物価は上昇圧力が高まる可能性がある。

実質個人消費

(前月比、%)

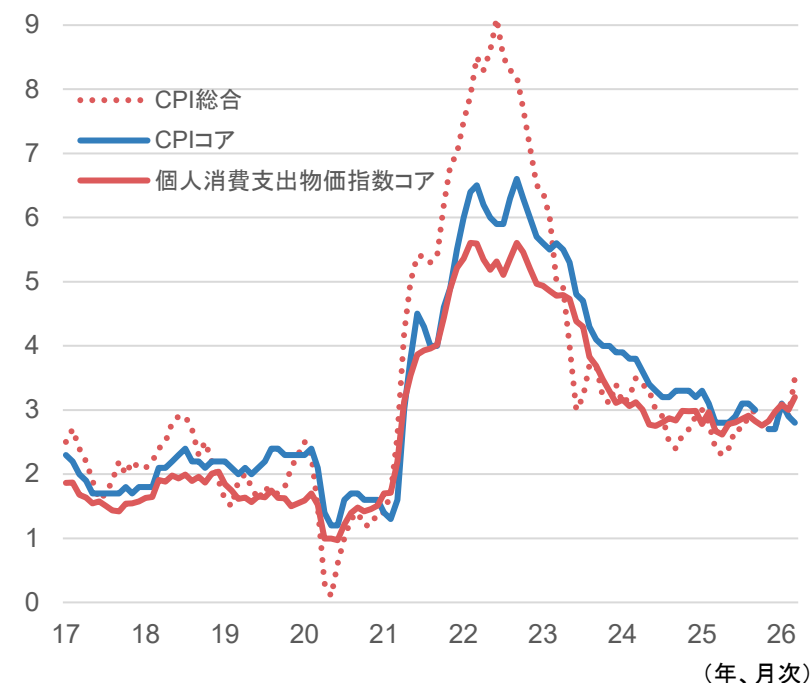


(出所)米商務省

(年、月次)

物価

(前年比、%)



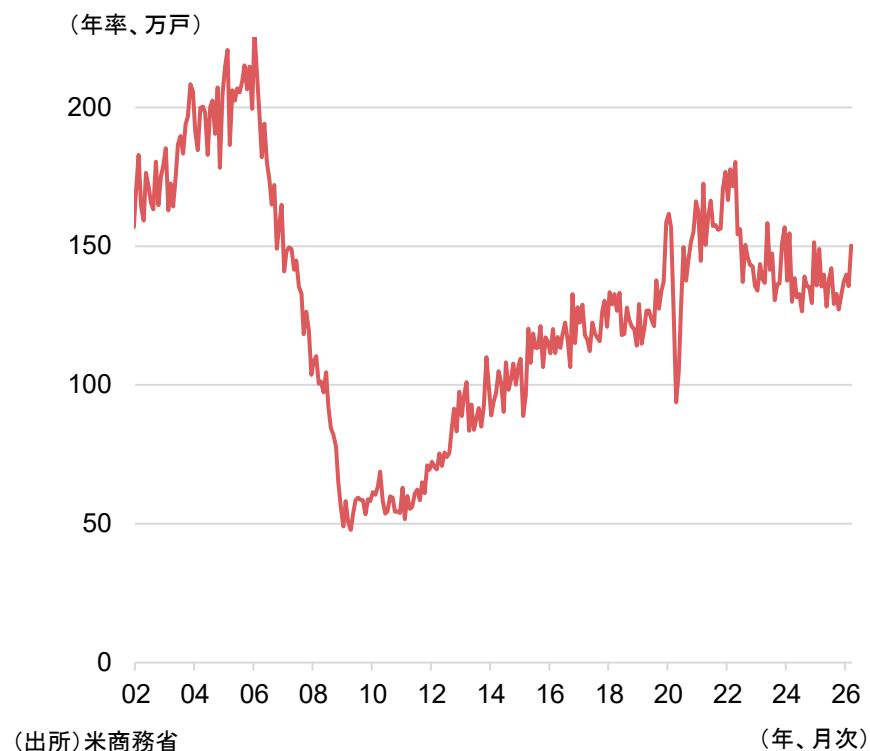
(注) 2025年10月のCPIは欠損値

(出所)米労働省、商務省

住宅：着工は増加、価格は上昇

- 3月の住宅着工件数は年率150万戸と、およそ1年3カ月ぶりの水準に増加した。もっとも、住宅価格やローン金利がいずれも高止まりしているため、住宅着工はなおしばらく一進一退の推移が続く公算が大きい。
- 2月の住宅価格指数は前年比0.7%上昇した。上昇は33カ月連続となったが上昇率は鈍化した。米国では住宅の供給不足が根強く、住宅価格は今後も上昇が続く見込みである。

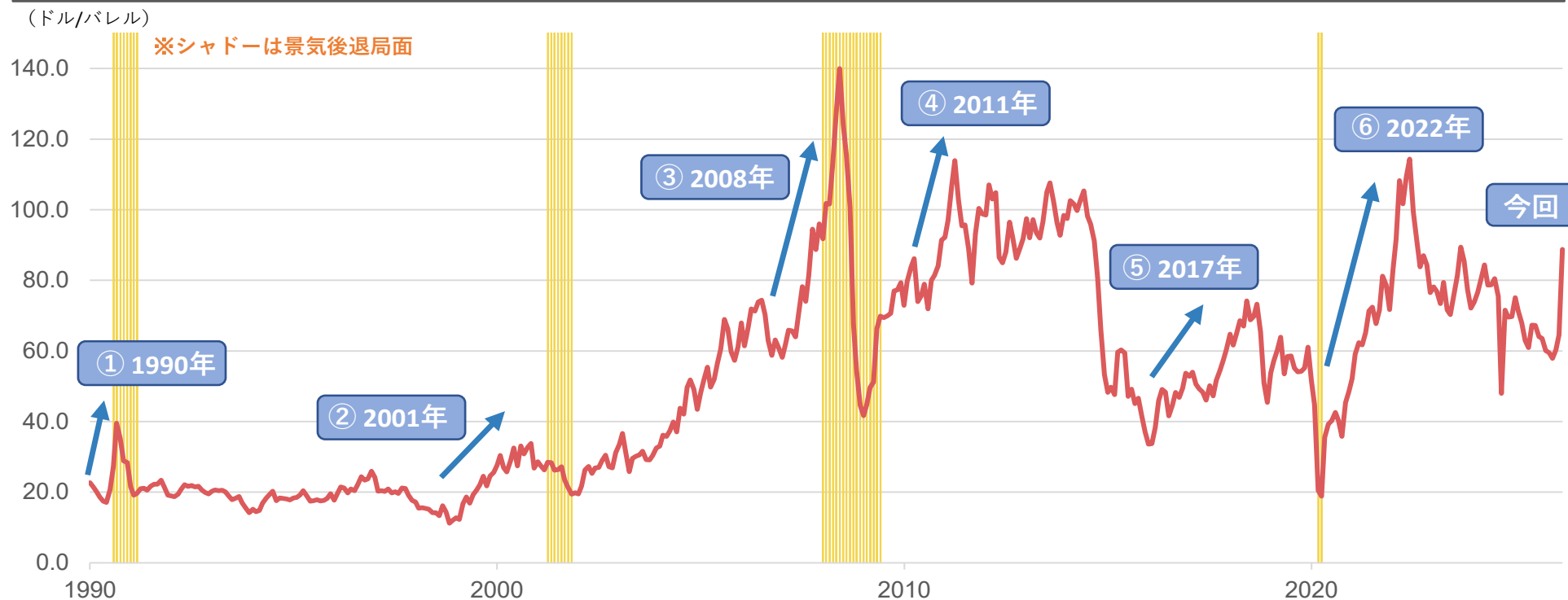
住宅着工件数



原油相場と米景気

- ガソリン高の米景気への影響が懸念されている。もっとも、油価と米景気の間をみると、1990年、2001年、08年の油価高騰時は景気後退入りしたが、2011年、17年、22年は景気後退入りを回避した。
- 背景には、自動車の燃費効率改善やEV普及により、個人消費に占めるエネルギー関連支出の割合が低下トレンドにあることがある。シェール革命により原油の純輸出国となった効果もあるとみられる。
- 米大手紙の専門家調査では、景気後退確率が50%を超える油価の回答平均値は146ドル。その高値がどれだけ続けば景気後退に陥るかは平均14週間であり、現状とはまだ距離がある。油価の米景気への影響は限定的にとどまりそうである。

原油相場と米景気の関係

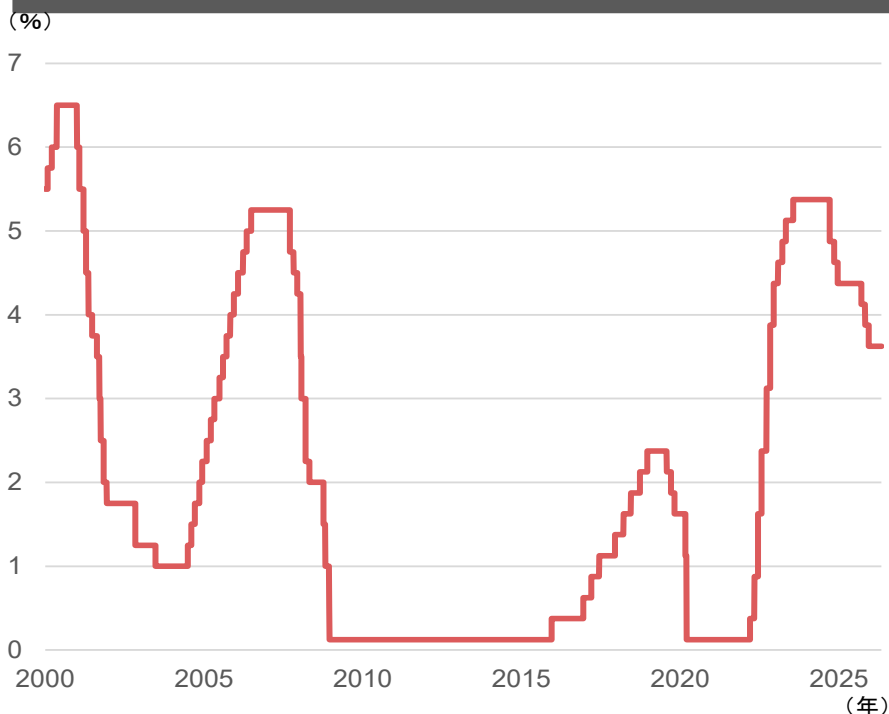


(出所) NYMEX、NBER

金融政策：金利据え置き、市場は年内の据え置きを予想

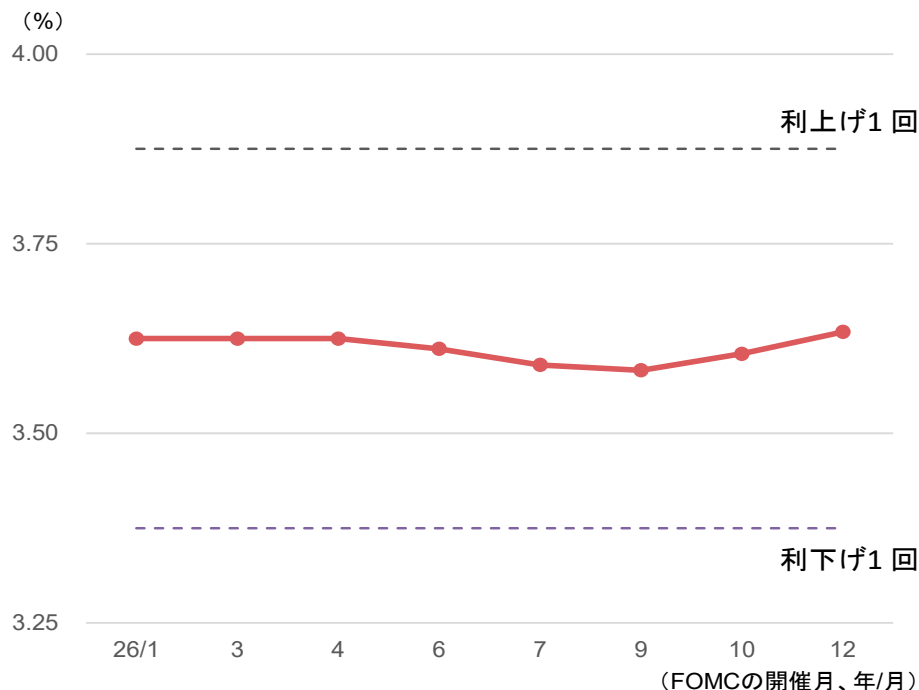
- FRBは4月28、29日に開催した連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利であるFF金利の誘導目標を3.5~3.75%に据え置いた。据え置きは3会合連続。
- パウエル議長は会見で、中東情勢の影響により、経済見通しの不確実性が高まっているとし、金利をしばらく据え置くことを示唆した。
- 米金利先物からFOMC会合ごとの政策金利を予想するCMEのフェドワオッチによると、イラン攻撃前までは、年内2回の利下げが見込まれていたが、原油高などにより年内は金利の据え置きが見込まれている(12月の利上げ確率は約12%)。

政策金利



(出所)FRB

金融市場における各FOMCの金利見通し



(注)各FOMCごとの利上げ確率をもとに計算した加重平均値、5月8日時点の値
(出所)シカゴマーカンタイル取引所

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 細尾

TEL: 03-6733-4925 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー